

<p>平成 24 年 7 月 31 日</p>	<h1>病虫害発生予報</h1> <h2>8 月号</h2>	<p>茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会</p>
-----------------------------	--------------------------------	--------------------------------

平成 24 年度茨城県農薬危害防止運動期間中です (6/15～9/14)  
～周辺作物への飛散防止対策を講じ、農薬は正しく使いましょう～

### < 目 次 >

<h2>I. 今月の予報</h2>	
<h3>【注意すべき病虫害】</h3>	
<p>  水稻：いもち病(穂いもち)，斑点米カメムシ類</p>	1
<p>  防除所レポート(斑点米カメムシ類)</p>	2
<p>  大豆：チョウ目幼虫</p>	3
<p>  ナシ：黒星病</p>	3
<p>  ナシ：ナシヒメシンクイ</p>	4
<p>  果樹共通：カメムシ類</p>	4
<h3>【その他の病虫害】</h3> <p>  水稻，大豆，サツマイモ，ナシ，ブドウ，抑制トマト，秋冬ネギ，共通害虫</p>	
<h2>II. 今月の気象予報</h2>	6
<p>最新の農薬登録内容は，(独) 農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(<a href="http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm">http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm</a>) で確認することができます。</p>	
<p>水田において農薬を使用するときは，農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに，止水期間を1週間程度とすること。</p>	
<p>詳しくは，病虫害防除所へお問い合わせ下さい。</p> <p>茨城県病虫害防除所   Tel :029-227-2445</p> <p>予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。</p> <p>ホームページアドレス <a href="http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/">http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/</a></p>	

## I. 今月の予報

### 【注意すべき病害虫】

#### 水 稲

### 1. いもち病（穂いもち）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在，調査圃場の葉いもちの発病度<sup>1)</sup>は1.6（平年値6.3，過去11年中11位），発生地点率は28%（平年値57%，過去11年中11位）と平年より低い。
- ② 7月下旬現在，水稻の生育は平年並である。
- ③ 気象予報によると，向こう1か月の降水量は少なく，日照時間は平年より多いと予想され，発生を助長する条件ではない。

1) 発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① いもち病菌がイネの穂に侵入しやすいのは，出穂直後から出穂後14日位までである。この期間に降雨が続く場合は，発生に注意が必要である。
- ② 穂いもちを対象とした薬剤防除の適期は，穂ばらみ末期～穂揃期である。葉いもちが多発し，上位葉に病斑が進展している水田では，防除を徹底する。

### 2. 斑点米カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在，水田内および水田周辺のイネ科雑草における発生量は，地域によるばらつきはあるが，県下全域としてはいずれも平年並である。水田内における主な発生種はクモヘリカメムシである。
- ② 水田周辺のイネ科雑草にカメムシ類の生息が認められる場合は，イネの出穂とともにこれらが水田に侵入すると予測される。
- ③ 気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か高く，降水量は平年より少ないと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 斑点米カメムシ類の成虫を対象とした防除適期は，穂揃期である。穂揃期に成虫を確認した場合は，防除を実施する。
- ② 斑点米カメムシ類の幼虫を対象とした防除適期は，出穂期の10～15日後頃である。斑点米の発生を防止するためには，特に幼虫防除が重要である。防除の際には収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。
- ③ 周辺よりも出穂の早い水田，ヒエ等の雑草が多発している水田では，成虫の飛来が集中しやすい。また，出穂の遅い水田では，周辺の水田等で増殖した新成虫が侵入することがあるので，発生には十分注意する。陸稲においても水稻と同様に発生に注意する。

## 防除所レポート

### 斑点米カメムシ類の主な発生種と生態について

県内の水田における斑点米カメムシ類のうち、発生量が最も多い種はクモヘリカメムシである(表1および写真)。クモヘリカメムシは、冬季は山林で越冬し、6月下旬頃からイネ科植物(エノコログサ、メヒシバ等)に生息した後、イネの出穂とともに水田に移動して穂を吸汁・加害し、葉や穂に産卵する。ふ化した幼虫もイネの穂を加害しながら成長し、20~25日で成虫になる。水田におけるクモヘリカメムシの発生量は、水稻の出穂が盛期となる8月上旬に増加し始め、その後も卵から幼虫がふ化したり、圃場外から新たに成虫が飛来すること等により増加する(図)。

クモヘリカメムシの成育に有効な気温の積算値によって、産卵開始時期と幼虫防除適期を予測した結果は表2のとおりであるので、発生状況に注意しながら防除の参考にする。

表1 水田におけるカメムシ種の発生頭数比率

カメムシ種	頭数比率 %
クモヘリカメムシ	80.8
アサジカスミカメ	6.2
イネカメムシ	4.1
アカヒゲホソミドリカ スミカメ	3.9
ホソハリカメムシ	3.4
トゲシラホシカメムシ	1.4
シラホシカメムシ	0.2

注) 県内で発生する主要7種について過去10年(平成13~22年、7~9月)の延べすくい取り虫数をもとに算出した。



写真 クモヘリカメムシ成虫

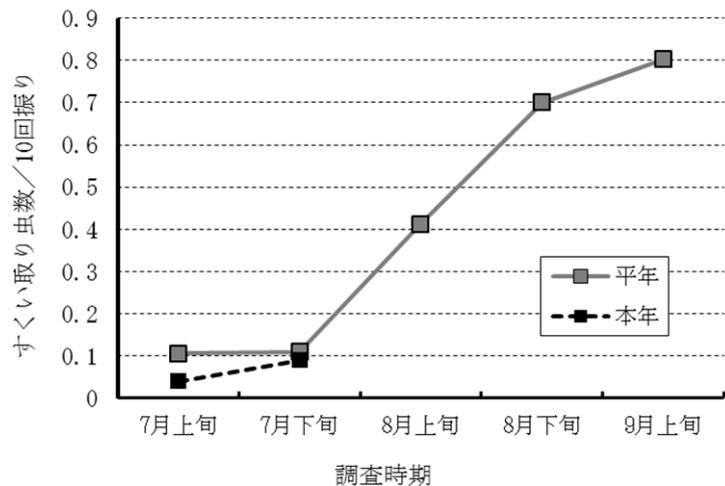


図 水田におけるクモヘリカメムシの時期別発生量の推移  
注1) 平均年のデータは過去10年(平成13~22年)の県内調査地点における平均値。2) 本年のデータは7月上旬と7月下旬のみ。

表2 本年におけるクモヘリカメムシの産卵開始時期<sup>1)</sup>と幼虫防除適期<sup>2)</sup>の予測結果

地点	産卵開始時期	幼虫防除適期
大子	7月27日	8月16日
水戸	7月28日	8月17日
筑西	7月24日	8月13日
鉾田	7月30日	8月19日
龍ヶ崎	7月26日	8月15日

注1) 産卵開始時期はクモヘリカメムシの発育零点を19.0℃とし、積算温度が207日度となる日として予測した(7月30日現在)。2) 幼虫防除適期は産卵開始時期の20日後として予測した。

## 大豆

### 1. チョウ目幼虫

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、寄生幼虫数は平年よりやや多く、発生地点率も平年よりやや高い。主な発生種はオオタバコガ、ツメクサガ、ハスモンヨトウ、サヤムシガ類等である。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 老齢幼虫になると薬剤が効きにくくなるため、圃場をよく観察し、若齢幼虫のうちに防除を行う。
- ② ハスモンヨトウでは、白変葉(若齢幼虫の集団加害によって白く透けた葉)の発生を防除の目安とする。
- ③ 薬剤散布の際は、葉裏や株元にも薬剤がかかるように丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、系統の異なる薬剤を散布する。

(平成24年7月31日発表 病害虫速報 No.3 参照)

## ナシ

### 1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、発病果率は平年よりやや高く(本年1.0%、平年0.7%)、発病葉率は平年より高い(本年2.0%、平年0.5%)。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病した果実及び葉は二次伝染源となるため、見つけ次第除去し、土中深く埋める等、適切に処分する。
- ② 発病が確認された圃場では、発病部位を除去した後に薬剤防除を行う。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。
- ④ 薬剤散布を行う場合は、収穫前日数に十分注意する。

(ナシ 続き)

## 2. ナシヒメシンクイ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、フェロモントラップへの第二世代成虫の誘殺数は、かすみがうら市及び土浦市で平年よりやや多く、笠間市及び石岡市で平年並である。
- ② 7月下旬現在、被害果率は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果を見つけた場合は、土中深く埋める等速やかに処分し、次世代成虫の発生を防ぐ。
- ② 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。
- ③ 薬剤散布を行う場合は、収穫前日数に十分注意する。
- ④ 早生品種（「幸水」等）で被害果が認められた場合は、晩生品種（「豊水」や「新高」等）を対象に薬剤散布を徹底する。

### 果樹共通

## 1. カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、被害果率は平年並である。
- ② 7月下旬現在、果樹園に設置した予察灯への果樹カメムシ類の誘殺数は、かすみがうら市及び笠間市で平年より多い。
- ③ 7月下旬現在、主要な餌場及び繁殖場所であるヒノキ林での果樹カメムシ類の発生は平年より多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 夜温が高いと活動が活発になり、果樹園への飛来も多くなるので注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合は、活動の鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ② 今後、果実肥大をするカキやリンゴでは、飛来する恐れがあるので注意する。

(平成 24 年 7 月 11 日発表 病害虫発生予察注意報第 4 号参照)

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水稲	縞葉枯病	発生地域: 県西地域 発生量: やや多い ～多い	7月下旬現在, 県西地域の一部圃場で発生を確認した。本病を媒介するヒメトビウンカの水田における発生量は県西地域では平年より多い。
	紋枯病	発生量: 少ない	7月下旬現在, 平年より少ない発生である。
	ニカメイガ	発生量: やや多い	7月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
大豆	紫斑病	発生量: ー	防除適期は開花期の 20 日後頃である。開花期以降から成熟期までに連続した降雨があると, 発生が多くなるので注意する。
	カメムシ類	発生量: 平年並	7月下旬現在, 平年並の発生である。
サツマ イモ	チョウ目幼虫	発生量: やや多い	7月下旬現在, 平年並～やや多い発生である。気象予報によると, 向こう1か月の気温は平年並か高く, 降水量は平年より少ないと予想され, 発生を助長する条件である。
ナシ	ハダニ類	発生量: 平年並	7月下旬現在, 平年並の発生である。
ブドウ	べと病	発生量: やや多い	7月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
	褐斑病	発生量: 平年並	7月下旬現在, 平年並の発生である。
トマト 抑制	黄化葉巻病	発生量: ー	発病株はただちに抜き取り適切に処分する。媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
秋冬ネギ	ネギハモグリバエ	発生量: やや多い	7月下旬現在, 夏ネギにおける発生は平年よりやや多い。
	ネギアザミウマ	発生量: 平年並	7月下旬現在, 夏ネギにおける発生は平年並である。
共通害虫	オオタバコガ	発生量: 平年並 ～やや多い	7月下旬現在, フェロモントラップへの誘殺数は水戸市・土浦市・龍ヶ崎市・筑西市で平年並である。気象予報によると, 向こう1か月の気温は平年並か高く, 降水量は平年より少ないと予想され, 発生を助長する条件である。
	ハスモンヨトウ	発生量: やや多い	7月下旬現在, フェロモントラップへの誘殺数は笠間市・龍ヶ崎市で平年よりやや多く, 水戸市・鉾田市・土浦市・筑西市で平年並である。気象予報によると, 向こう1か月の気温は平年並か高く, 降水量は平年より少ないと予想され, 発生を助長する条件である。

## II. 今月の気象予報

### 関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 7月28日から8月27日)

気象庁 (7月27日 発表)

#### <特に注意を要する事項>

期間のはじめは気温が高いでしょう。

#### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	40	40
降水量	関東甲信全域	40	30	30
日照時間	関東甲信全域	30	30	40

[概要]

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

#### <1週目の予報> 7月28日(土曜日)から8月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

#### <2週目の予報> 8月4日(土曜日)から8月10日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

#### <3週目から4週目の予報> 8月11日(土曜日)から8月24日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。